

# 水 泳 競 技 実 施 要 領

## 1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則「（公財）日本パラスポーツ協会制定」及び本大会の申し合わせ事項による。

## 2 招 集

- (1) 招集所は会場内で行うので競技役員（審判員）の指示に従う。
- (2) 招集は、競技開始時刻の20分前に完了する。
- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権したものとみなし、出場できない。  
また、競技の進行状況によっては、競技開始時刻が早くなることがあるので競技進行状況を把握し招集に遅れることがないように注意すること。
- (4) 棄権する場合は、招集所に棄権届けを提出すること。
- (5) 障害区分23の競技者が装着する光を通さないゴーグルは、招集所において競技役員が光の漏れがないか確認する。確認後はプールへ入場するまでに装着し、競技終了まで外してはならない。

## 3 競技方法

- (1) スタート  
スタートの合図はイングリッシュコール「Take your marks:テイク・ユア・マークス」（意味：用意）の合図を使用する。
- (2) スタートの選択
  - 自由形、平泳ぎ、バタフライ、4×50mフリーリレーのスタートは、台上、台の横から立位または座位によるスタートを選択できる。スタートは、プールの水深を確認し、注意してからスタートする。
  - 自由形、平泳ぎ、バタフライの水中スタートは、少なくとも片手でスターティンググリップを含むプールの壁をつかんだ状態からスタートしなければならない。身体的理由により壁をつかめない場合は、水面上の身体の一部がプールの壁についていればよい。また、審判長の判断により安全な用具の使用も認められる。
  - 背泳ぎのスタートにおいて身体的理由により両方の手でスターティンググリップをつかめない競技者は、少なくとも片手でスターティンググリップを含むプールの壁をつかみ壁側を向いた状態からスタートしなければならない。壁をつかめない場合は、水面上の身体の一部がプールの壁についていればよい。また、審判長の判断により口にくわえるロープなど安全な用具の使用も認められる。
- (3) スタート介助  
身体的理由により壁をつかむことができず、かつ、身体の一部を壁につけることができない場合には、スタートの合図がなされるまで足をプールの壁につけて保持してもらってもよい。ただし、スタートの際に競技者を支えている者は競技者に勢いを与えてはならず、その場合はフォルススタートとなる。
- (4) 誘導
  - 競技場内での誘導は競技役員（審判員）の指示に従うこと。
  - 視覚障がい者、下肢障がい者等でプールの出入りなどに補助を要する人には補助員を配置する。
- (5) 計時  
計時は自動審判計時装置（タッチ板）を使用する。
- (6) ウォーミングアップ  
ウォーミングアップを行う場合は、競技運営に支障のない時間帯に審判長の指示に従って行うこと。
- (7) 視覚障がい者
  - 障害区分23の競技者は、競技中に光を通さないゴーグルを装着し競技終了まで外してはならない。ゴーグルを外すことができるのは、審判または競技役員が認め

たときだけであり、いかなる理由があっても意図的にゴーグルを外してはならない。ただし、飛び込みの際などに、故意によらずゴーグルが外れた場合は、その限りではない。

●障害区分23の競技者及び同等の障がい重複する競技者のゴールとターンでは、競技役員または許可された者が安全な棒などを使って身体をたたいて合図（タッピング）しなければならない。障害区分24の競技者には行うことが出来る。

(8) 聴覚障がい者

聴覚障がい者のスタートでは、出発合図は全競技者から見やすい位置で、光刺激スタート合図システムまたは、言葉とゼスチャーを併用して合図する。手話通訳者は一切合図はしない。

#### 4 競技の服装

(1) キャップを着用する。

(2) 水着は、WA (F I N A) の公認した水着を着用すること。ただし、身体的理由によりWA (F I N A) の公認した水着の着用が不可能な場合は、競技開始までに申請書を提出し、審判長の許可を得ること。

#### 5 I Dカード

ナンバーカードの代替えとして、主催者が用意したI Dカードを常に携帯する。

#### 6 表 彰

出場者全員に記録証を授与する。

#### 7 その他

(1) 会場内では、競技役員の指示に従い事故防止に十分注意すること。

(2) 会場内での写真・ビデオ等撮影は、主催者の許可を得た者以外は撮影できない。

(3) 競技場内へは、大会役員、競技役員、競技補助員等、大会競技役員関係者及び競技者、許可された介助者、報道関係者以外は立ち入ることができない。